

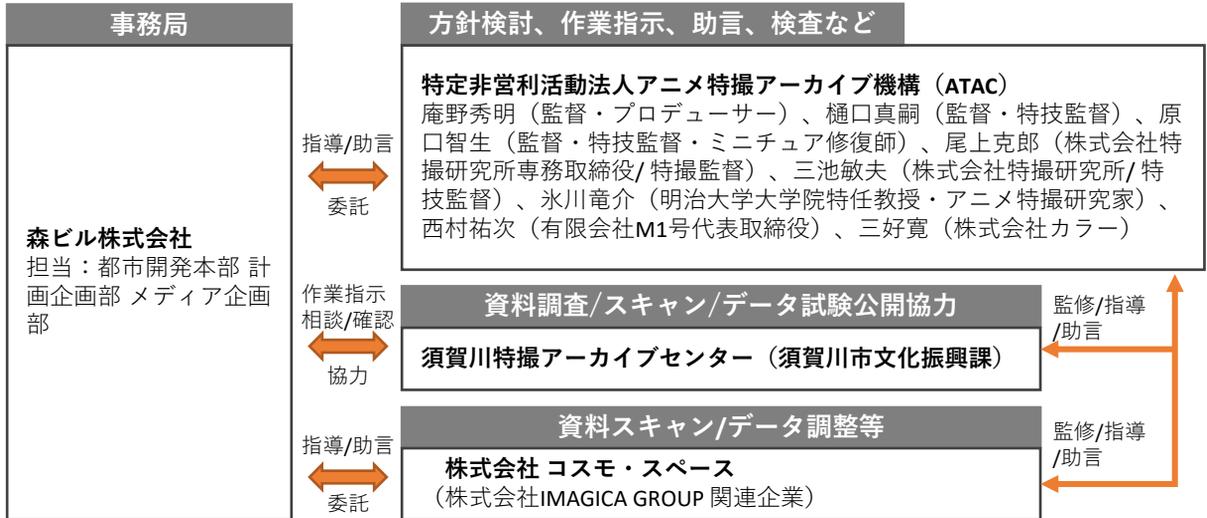
日本特撮アーカイブ

森ビル株式会社

概要／課題

日本特撮アーカイブは、特撮に関する中間制作物の保管・保全を第一の目的としている。中でもミニチュアなど一次資料となる現品は、適切な環境で永続的に保存していかなければならない。また、それらの展示・講演会・ワークショップ・上映会などを通して特撮の魅力を後世に伝えることで、特撮文化の継承に繋げていくことを目指している。

体制



成果

2015～2018年度：ミニチュア類の保存に向けた修復・復元

長期保存や展示等の利活用のためには修復・復元の必要があったミニチュアの修復・復元を実施。2016～2018年にかけては円谷英二監督の最後の長編作品となった映画『日本海大海戦』で使用された全長6mの戦艦三笠の修復復元を実施。

2019年度：「須賀川特撮アーカイブセンター」開館に向けた収蔵品のリスト化

須賀川特撮アーカイブセンターで保管される特撮作品に使われたミニチュア・立体造形物・背景画・設計図面・写真・フィルムなど多岐にわたる品々について、円滑な施設開所に向けて収蔵品のリスト化作業を実施。

2020～2021年度：劣化が避けられない造形物のデジタルデータ化

現物保管が困難と言われてきた着ぐるみなどのラテックス（ゴム）製の造形物や大型の中間制作物について、3D立体スキャン技術を活用した立体物のデジタルアーカイブを試行。

2022年度：特撮美術監督 渡辺明氏関連資料の調査・整理・デジタルアーカイブ

円谷英二特技監督の片腕として1942年から1965年まで、東宝の特撮専門の美術監督として活躍した渡辺明氏が、特撮映像作品の制作現場の記録として残した大量の写真、フィルム、図面、スケッチ等の貴重な資料の調査・整理・デジタルアーカイブ（2Dスキャン/データ化）を実施。



【残された課題】

現在も特撮に関連した数多くの中間制作物の廃棄/散逸が続いており、保存されていても保管場所の維持や継続が困難なケースも各所で見られる。文化財産としての特撮中間制作物の保管・保全を今後も継続的に進めていくことはもちろん、アーカイブを担う人材の育成も課題である。

【公開方法/文化的・社会的・経済的な意義】

「須賀川特撮アーカイブセンター」における特撮関連中間制作物等の公開ならびに講演会・ワークショップなどを実施。各種展覧会等への展示協力や、関係機関での公式サイト等への掲載も併せて行い、それら活動を通して特撮文化の普及啓発を行っている。